

中小企業地域資源
活用促進法に基づく



ふるさと名物
Furusato Meibutsu

青森県弘前市
が応援するふるさと名物

「じょっぱり」気質に育まれた
弘前の伝統工芸品

あけび蔓細工、津軽こぎん刺し、下川原焼土人形、太鼓、津軽打刃物、津軽桐下駄、津軽竹籠、津軽凧、津軽塗、津軽焼、錦石、弘前こけし・木地玩具、ブナコ



わが市町村の
ふるさと名物は
これ!





ふるさと名物
Furusato Meibutsu

応援宣言

青森県弘前市

～お城とさくらとりんごのまち～

地域の
プロフィール

弘前市は、藩政時代以来約400年の歴史を持つ城下町であり、津軽地域の政治、経済、文化の中心都市として発展してきました。

東に八甲田連峰を望み、西には津軽衆の魂のふるさとである秀峰岩木山、南西には世界自然遺産白神山地を擁する自然に恵まれたまちです。

市内には、日本一の桜の名所である弘前公園をはじめ、33の寺が連なる禅林街や最勝院五重塔、伝統的建造物群保存地区である仲町の家並み、あるいは旧弘前市立図書館や青森銀行記念館など明治・大正期に建築された洋風建築物、昭和を代表する近代建築の巨匠前川國男の作品など多くの歴史的建造物が残っています。

また、春のさくらまつりや夏のねぶたまつりなど四季のまつりでは、多くの観光客で賑わう観光都市です。最近では、日常の生活文化を体感するまち歩きも評判となっています。



「じょっぱり」気質に育まれた弘前の伝統工芸品

「津軽藩」「厳しい冬」「豊かな山々」「りんごの産地」が生み出した数々の工芸品
弘前に生まれた多くの工芸品は、人々のなりわい、生きるすべとして、生まれました。
「じょっぱり※」気質によってつくられる緻密な工芸品は人を引き付ける力があります。
弘前市は13品目の伝統工芸品をふるさと名物として宣言します。

※じょっぱり：
津軽地方の方言で、
意地っ張り、
強情張りの意。



▲津軽塗



▲ブナコ



▲津軽こぎん刺し



▲津軽打刃物



▲津軽焼



▲下川原焼土人形



▲あけび蔓細工



▲津軽竹籠



▲弘前こけし・木地玩具



▲津軽凧



▲錦石



▲津軽桐下駄



▲太鼓

■ 代表的な弘前の工芸品



○津軽塗

津軽塗は、主にヒバの木地を用い、塗り、研ぎを繰り返し、最後の磨き上げまで、約50工程を経て完成される堅牢優美な伝統的漆器である。唐塗、ななこ塗、紋紗塗、錦塗の伝統的な4つの技法は現在まで脈々と受け継がれ、現代風のアレンジも加え、多様な紋様を生み出している。（昭和50年国の伝統的工芸品指定）



○ブナコ

ブナコは昭和31年、当時の青森県工業試験場で研究開発され、民間企業の手で商品化された。主にブナ材を用い、薄いブナのテープを巻いて押し出すというブナコ独特の成形技術は、割れ、狂いのない高品質の木地を作り出している。卓上用品から家具・インテリアへと幅を広げ、今日では、弘前が誇る新しい木のクラフトとして海外からも注目されている。



○こぎん刺し（津軽こぎん刺し）

津軽のこぎん刺しは、江戸時代、農村の女性が野良着の麻布を木綿糸で刺して保温と補強をした「刺しこ」から発展している。藍染めの麻布の織り目に沿って、白い木綿糸で規則的に刺すことで、「津軽こぎん刺し紋様」と呼ばれる独特な幾何学紋様を生み出した。現在では多彩な色合いのこぎん刺しが作られ、生活雑貨からファッションまで製品も多様である。

市の取り組み①

■まちなかクラフト推進事業

◆クラフトの拠点「弘前工芸舎」



市内の工芸品を一堂に会した
セレクトショップの開催
場所：藤田記念庭園考古館

◆弘前クラフトマップの製作



弘前市内53か所の工房・ショップ
を掲載したマップの製作

市の取り組み②

■BUYひろさき運動

◆企業内物産展



▲津軽塗ワークショップ



▲りんご染、津軽こぎん刺し、あけび蔓細工の展示販売



▲ブナコワークショップ



▲ブナコ展示販売

◆親子で体験ワークショップ



▲津軽塗スプーン研ぎ出し



▲津軽こぎん刺し（コースター）



▲ブナコ



首都圏の企業の職域に出向く
新たな物産展のカタチ

夏休み中の小学生を対象に
首都圏でワークショップを開催

■ その他

◆ 国内外の物産展でのPR



▲ (上) 台湾での弘前フェアにおける津軽塗、津軽こぎん刺しの販売、(下) 津軽こぎん刺しワークショップの開催

◆ 「津軽の手仕事プロモーション」 (青森県、弘前工業研究所との連携事業)



まちあるき提案や、かわいらしいイラストを取り入れたPRツールの製作

- ◆ ひろさきブランド販路開拓支援補助金
- ◆ 伝統工芸品活用補助金
- ◆ 市内小中学生の体験学習を通じた人材育成

市長からのメッセージ

弘前の多くの伝統工芸品は、先人が生きるために工夫と努力を重ね、生み出し、伝えてきたものです。

魅力ある伝統工芸品はまちあるきのコンテンツとしても大きな役割を担っています。

市内工芸品を一堂に会したセレクトショップ「弘前工芸舎」においては新作の紹介など、常に新たな提案をしています。また、「弘前クラフトマップ」を片手に街を歩いていただければ、すばらしい多くの工芸品に出会えることでしょう。

さらに、国内にとどまらず、海外における展示販売・ワークショップ開催による魅力発信や、事業者自らが販路拡大する際の費用の補助、市内店舗への伝統工芸品導入費用の補助などを行うことで、ふるさと名物である「じょっぱり」気質に育まれた弘前の伝統工芸品を応援してまいります。



弘前市長 櫻田 宏